

5月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 0.0km～6.2km
			管轄出張所：豊川出張所
実施日	令和2年5月5日、15日	実施区間	左岸 渡津橋～上渡津橋付近



ヨメツキガニ

引潮に近い時間に行けば生物が沢山見られると期待して、5日の午前中に先月とは違う場所の川辺に下りてみた。干潟に砂団子があったのでよく見ると、いる!砂地に保護色のコメツキガニが沢山。砂と区別がつかないのですぐ見失うけど、じっとしていると穴から出てきて、こちらが動くと巣穴の近くで一瞬固まって動かなくなる。大丈夫となるとまた忙しく動き出す。水際に行くとフジツボや沢山のクマノコガイ、ウノアシガイが付着した赤紫色の岩がごろごろあった。岩の隙間でカニが泡を噴いていた。家でネットで調べたらカニが泡を噴くのは呼吸困難と書いてあった。体調不良のカニなのか?謎。こちらに気付くと水中に消えていった。葦原の足元はきれいな緑色の藻?で覆われていた。緑色の底生生物が藻類なのか、また藻類は水生植物ではないそうで知らない事ばかり……。現地では気付かなかったが、帰って見たらこの写真にもカニ(おそらく)が写っていた。

先月右岸で見たチゴガニとヤマトオサガニは、それぞれが集団で近くだけ別の場所でみかけたが、今回15日の午後に出掛けた左岸では、違う種類で混ざっていたし、この日は沢山のヒメタニシもごろごろ一緒にいた。チゴガニの素早いバンザイを、写真に撮るのはなかなか難しい。近くの葦原では賑やかな鳥の音がしていた。係留杭がオオヨシキリ(口の中が赤いのが特徴らしい)のソングポストになっていた。葦原の中にある鳥を見つけることは出来なかった。観察中、カラスがカニをくわえているのも見られた。渡津橋と上渡津橋の間で、同じ左岸で少ししか離れていない場所でも砂干潟と泥干潟と違う様子になり、棲む生物の種類も違う事がわかった。3密にならないとはいえ、コロナ禍で外出自粛が叫ばれているなか川に行くのは少々気がひけたが川の観察は楽しく良い気分転換になった。 ※生物の名前等は家に帰ってインターネット参照にして調べたものです。



ヒメタニシ

チゴガニのウェーピング



ギョギョシー  
ギョギョシー

オオヨシキリ